

ごみ問題解決に全力をつくします！

日本共産党は8年前から
燃やさない方法を提案

8年前の市議選でも高萩市のごみ処理をどう進めるか、大きな焦点となっていました。

日本共産党高萩市委員会は、21世紀の高萩市のごみ処理は「燃やさない方法に大転換を」と訴え、次のように明らかにしています。

「ダイオキシンの発生を抑えるには、ごみを燃やさないことが一番の対策です。そのためには『ごみは燃やすもの』という焼却中心の発想を転換して、ごみの分別を徹底し、リサイクル・資源化・減量化に取り組むことが必要です」。

「燃やさないで処理を」
市議会が市長に答申



05年3月定例議会で、市議会は高萩市のごみ処理方針を市長に答申しました。

答申は「市民の安全や自然環境に配慮したごみ処理システムとして生ごみの堆肥化などを検討し、循環型社会に向け、慎重かつ早急に方針を決定して対策を講じるべきである」と、可燃ごみを燃やさない方法で処理することを求めています。

可燃ごみは燃やさないで処理

施設は北部衛生センター内に建設

市長は、可燃ごみは炭化処理方式で処理し、リサイクルセンターと合わせて高萩市のごみ処理を行い、処理施設の建設場所は北部衛生センターの敷地内で行うことを明らかにしています。

可燃ごみの処理方法は、日本共産党の基本的立場と一致するものです。

炭化処理方式は、新しい方式です。技術的なことも含め、安全で環境に影響を及ぼさないよう求めていきます。



解体工事が進む北部衛生センター



市議会議員 平正三

お約束します

高萩協同病院の医師の充実と産科の早期再開を求めていきます。
介護保険料・利用料の減免制度を確立させます。
小学6年まで医療費無料化を実施させます。
学校給食センターの調理業務の民間委託化をやめさせます。
松岡小学校校舎改築の早期実現をはかります。
通学路の交通安全対策を促進させます。

市民の暮らし・福祉を守る議席 — 平正三議員

財源を生み出すために積極的提案

国の交付金活用後の
旧焼却施設解体事業費内訳 (単位: 万円)

解体総事業費		30,965
財源内訳	(交付金)	6,037
	(負担金)	1,415
	(地方債)	20,300
	(一般財源)	3,213

旧焼却施設解体に、約3億円の一般財源を使って行う計画に、平正三議員は国の交付金を活用して、市の持ち出し財源を減らすべきと提案し、当初の一般財源の持ち出しは約3千万円となり、約2億7千万円の削減となりました。

(市民アンケートに寄せられた市民の声)
平氏のごみ解体に伴う工事費の改善は称賛に値する。



高萩協同病院の移転新築を求める市民デモ
(高萩市役所前)

平正三議員は、高萩協同病院の移転・新築に当たって、多くの市民の皆さんや保守系議員との協力・共同を大切にして、住みやすい高萩市をめざして運動してきました。
過去にも、爆破訓練場誘致反対運動、ゴルフ場建設反対運動など、常に市民の側に立って市民みなさんと共に運動してきました。

党派を超え市民との共同を大切に

旧焼却施設解体費 一般財源使用を 約2億7千万円削減させる

自公政府によって実施された定率減税の全廃が市民の暮らしに与えた深刻な実態を、日本共産党高萩市委員会が2月におこなった「市民アンケート」が告発しています。



介護保険料の値上げ、税金の値上げと年金生活者から差し引かれる額が増えて暮らしが大変。(駒木原・女性・70歳代)

定率減税がなくなり、生活の先行き不安が増した。(安良川・女性・70歳代)

定率減税の変更・廃止はこたえます。所得税・住民税アップ、いざという時の準備・積み立てが苦しくなりました。(島名・男性・70歳代)

物価、税金等がどんどん値上がりなのに、収入が削減されていく。高齢者にも容赦なく課税される。年金で支払うことができない。(島名・女性・60歳代)

年金から所得税、介護保険など差し引き額増加による将来設計への不安が増した。所得税6万1千3百円、介護保険5万8千円増。(下手綱・男性・70歳代)



昨年が続く定率減税の廃止と介護保険料の大幅な値上げは、お年寄りや年金生活者の負担が激増し生活がいつそうきびしくなりました。

市議会で定率減税廃止と介護保険料値上げに反対したのは、平正三議員ただ一人でした。

定率減税廃止
介護保険料値上げ

ただ一人反対

